



ネイチャーなら

《わたしたちは大和の自然を愛します》

発行2015年7月1日

7月号・第162号

奈良・人と自然の会

会長 藤田 秀 憲



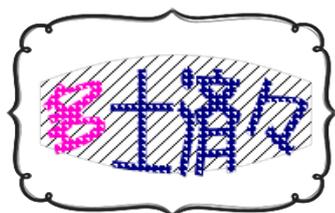
佐保台小学校の田植え実習

ホームページでは、カラーで見ることが出来ます

Contents

URL <http://www.naranature.com>

多土済々(塩本勝也さん)	1	やさしい病害虫講座	12
Monthly Repo.ならやま	2	青垣春秋	13
里山の今	3・4・5	俳句百景	14
6月月例研修会(當麻)・報告	6	癒しの散歩道&ならやま茶論	15
5月歴史特別研修会(出雲)・報告	7	Galleryならやま	16
6月自然教室チームだより	8	ならやまプロジェクト	17
田植え実習・字遊字感	9	行事案内 part1&part2	18・19
ならやま里山林とナラ枯れ対策	10	part3・予告、旬菜旬食、奈良学クイズ	20
「鳥」シリーズ	11	幹事会報告・申し合わせ・編集後記	21



長身のサムライ

塩本 勝也 さん

顧問 川井 秀夫

平成20年秋、この里山へ大巨人がやって来た。塩本 勝也さん。当時の幹事さんがCFの集会される場にふらりと来られ、入会の申し出があり大いに歓迎したものでした。



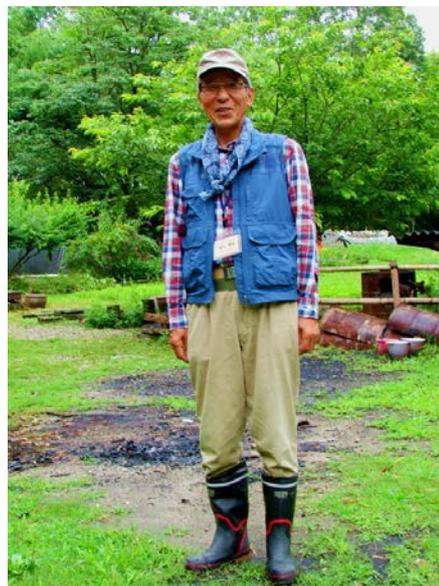
お隣の佐保台に在住され、毎日散歩道として我々の活動を垣間見られていたご様子で、既に同地区から平井さん・水本さんの入会があり、市民派の戦力として心強く思ったものでした。身長六尺豊か（183cm）の最長身で、当時私の執筆した人物描写で、名画・黒沢明の「七人の侍」で、三船 敏郎扮する粗暴だが人情味のある「菊千代」を髣髴する記事を書かして頂いた事を思い出します。

会の中核として、当時荒れた山の傾斜面で、高木に猿（ましら）如く駆け上り縄掛け、枝葉の剪定に、時に水路の屈削、杭打ちなど土木作業に剛腕を振るわれた姿が印象に残ります。

今回、会長の良きパートナーとして、事務局長（3年間）の重責を全うされましたが、幹事として6年間の功績に拍手を送りたいと思います。謙虚な方で余り無駄口を聞く事はありませんが、自ら「塩翁イ」と自称され自治会の子供たちとのコミュニティの場でアイドル翁さんとしてご機嫌のご様子とお察し致します。

諸事情から下野されましたが、もう暫く藤田会長（最重量？kg）と重厚長大の盤石のコンビを確立して頂きたかったと残念には思いますが、これからも当会の遊撃手として多分野でご活躍を念じております。少し照れた笑顔のスピーチを聞きたいから・・・。

後になりましたが、塩本さんは丹後 宮津のご出身。大手鋳物メーカーに勤務され、東京・大阪と転地され奈良に落ち着かれた由。この里山に愛着を持たれたのも宮津の風光明媚なふるさとが原風景として心にあるのでしょうか。



ご趣味はゴルフを少々、無趣味だとおっしゃいます。若い頃はボートを少々と、能ある鷹は爪を隠すとか。家庭円満、病身の義父がおられる様ですが、人生これから、また酒を酌みながら馬鹿話でもやりますか。

同じ申年 頑張れ塩翁イ。

風雪に耐えて花実のひと世かな

秀夫

Monthly Repo. ならやま

5月21日(木) 活動 晴れ 62名+3名

通常総会終了後の第一回目の活動日。朝の打ち合わせの際には会長から、新役員や退任する役員の紹介。作業でも各グループとも春本番に向けて準備や作業にとりかかり、いよいよ新年度が始まったという感を強くする。こういった状況が今しばらく続くだろう。

しかし、どんな作業でもやはり安全面への配慮が第一。注意を怠ることは出来ない。加えて、所有する備品類の維持・管理もしっかりして、毎回の活動に支障が出ないようにする必要も痛いほど感じる。



シイタケの本伏や天地返しに取り組んだ里山 G。エコファーム G では主に野菜類の支柱たて

を中心に作業を行った。また景観 G は第5地区や BC で草刈り作業のほか、夏花の種まきや夏の GG プロジェクトに向けての水生生物の準備をした。パトロール班は観察路の点検を行った。

5月28日(木) 活動 晴れ 57名+7名

今日は、シニアの実習生 3 名に加えて森林技術センターから 4 名の来客。特にセンターはなら枯れ故損木の搬出にいられた由。

まき割の玉切りや雑木整理に取り組んだのは里山 G。6 月に行われる佐保台小をメインとした田植えに向けての代掻きや田の草刈り等の準備や野菜の収穫はエコファーム G。特に今年から小学校向けの田植えには、昨年と逆で北側の田んぼを使用するとか。そして竹の伐採や水生生物調査、チューリップ撤去や山野草の草刈りに取り組んだのは景観グループ。パトロール班は希少植物の保護に。



その他、6月4日実施予

定の佐保台小の田植えや次回幹事会の開催についても再度連絡があった。

6月4日(木) 活動 晴れ 62名+2名

今日は、近くの佐保台小から 5 年生が田植えのため、ならやまに来訪。楽しみにしていた TV の撮影はなくなったが、児童 14 名は初めての体験に文字通り泥だらけになりながら、歓声をあげる。秋の収穫が大いに楽しみである。また、当会会員もそのあと同じように田植えに取り組む。目標は 100 キロの収穫だそうである。こちらも果たして期待通りになるか、楽しみである。

里山 G は、第 1 皆伐区のコナラの萌芽の剪定や移植に取り組む。エコ G は田植えの準備や指導、そしてタマネギやニンニクの収穫に大忙し。



景観 G は新しく購入した刈払機の切れ味に改めて驚きながら BC 付近の草刈りに汗を流し、午後は機械の保守管理。また、花関係では

麦の株おこしやアジサイの整理に時間を費やす。パトロール班は 2 コースを回った。

6月11日(木) 自主活動 曇り後雨 30名

降水 60%の為活動日は中止であったが、30 名の参加者で 11 時まで作業を行い、それぞれの G では一生懸命活動に取り組む。枯れた野菜の後始末等はエコ G、BC 付近の草刈りは景観 G、そして果樹班は梅の実の収穫や剪定を行った。来年こそ目標の量が収穫されますように。.....

6月12日(金) 臨時活動 晴れ 14名

昨日の今日ゆえか、良い天候にもかかわらず、参加者が少ない。それでも少ない人数ながら一生懸命作業に取り組む。

特にエコ G は肥料小屋の引越しを行ったがこれで BC 付近もかなりきれいになった。

(八木 順一)

里山グループだより

中井 弘

某月某日

里山グループ参加者は12名、作業前ミーティングで杉山リーダーから作業内容が説明される。今日はコナラの伐倒と伐木の整理・玉切りである。4人ずつ3班に編成され、担当区画が決まる。チェーンソー、ロープ、スリング、ワイヤー、チルホール、滑車、クサビ、ハンマー、オイルと燃料などを一輪車に積込む。伐倒係は防弾チョッキにも使われるアラミド繊維製の「ローハイド」を穿く。クリント・イーストウッドを彷彿とさせ、かっこいい。♪ローレン、ローレン、ローレン♪

コナラは大径木ほどナラ枯れ被害が進み、すでに伐倒済みで、10cm程度の中径木が伐倒対象だ。まず対象木の重心をみて倒す方向を決める。そして作業足場と退避場所を確保する。4m位の高さにロープを掛け、倒す方向の立木に滑車をつけてロープをL字型に張る。受け口を切り、追い口を切り進みながらロープを3人で引っ張る。チリホールを使うこともあり倒す方向に誘導する。

この時が一番危ない。今日は何度も「ヒヤリハット」を経験する。倒した木の枝が折れて飛来しヘルメットを直撃した。また枯松の伐倒中に幹の中央が折れ、爪先近くに落下したり、追い口を切り進めている途中で木が倒れ始め、チェーンソーが抜けず退避が遅れたりした。ある統計では森林作業での事故で最多は伐倒時で57%を占めるという。杉山リーダー口癖の安全第一を痛感した。

伐木の整理は引っかかった掛り木を切り倒し伐木を地面に横たえてから、手鋸で大枝を落し、剪定鋏で小枝を切り取り傍らに美観を保って積み上げる。幹は薪用に玉切りして、後日搬出し易く道端に並べて山での作業は終わった。ベースキャンプに戻り、チェーンソーの目詰まりの掃除、チェーン

のチェック、ガイドバーの溝掃除をして、本日の作業が完了となる。みなさまご苦労様でした。



エコファームだより

川井 秀夫

♪夏も近づく八十八夜

野にも山にも若葉が茂る♪
八十八夜を過ぎると農繁期がやって来る。特に稲作の準備に大わらわ。

播種・早苗育成・代田作り・水路整備・田植えと余念のない日が続く。

6月4日。佐保台小五年生の児童14名が田一面に歓声を上げる。辻本さんの掛け声「良いかい、ヨーイドン」正に運動会。泥田に足をとられながら整然と田植えが進む。お見事、田の神もにっこり、秋の収穫を願い日本の弥生文化が継承されて行く。

夏野菜も好調、サツマイモ・ナス・トマト・ナンキン・唐辛子・オクラ・ズッキーニ・馬鈴薯・ニンニクなど、など。早川さんの借地に播いた枝豆も注目の的、酒の肴に秋の実りを期待したい。

このところ雨続きで作業日が途切れ、自主作業でカバーしているが、トマトの天蓋・ナス追肥・



ズッキーニの成長



ナスの剪定

吊り手・害虫防除・枝豆の根切りなど、集中作業が捗らない。天恵の雨と言うのが水遣りには福音だが、こればかりは天に祈るのみ。

晴れよ晴れ畏み申す。

作物は愛情、志あれば結果良し。後は天運を願う。

はらからと百実百根祈る夏 秀夫

ならやま花だより

山中笙子

ならやまの種類も数も増えてきたアジサイの中で、ヤマアジサイが雨によく映えしっとりと咲いています。白、ピンク、ブルーと色様々だけれど、特にブルーの花が私のお気に入り。山の沢を好みサワアジサイとも呼ばれ、小ぶりで繊細、葉は光沢がない。真ん中に雄しべ、雌しべのある両性花(真花)、その周りに装飾花(花びらに見えるガク片)が付いており、中央の両性花にはたくさんの雄しべが見えます。似ているガクアジサイは、枝が太く葉も大きく別の物です。ガクアジサイの両性花が全部、装飾花に変化したものがセイヨウアジサイだそうです。



ペタキン日記38

羽尻 嵩

5月21日(木) この日カルガモが同じ場所で2回目の抱卵を始めた。
5月28日(木) ならやま池の生物調査の日だったが、抱卵しているカルガモを脅さないようにできるだけ静かに調査をした。

竹本さんがドジョウ池の横に更に小さな池を造られた。

6月4日(木) 佐保台小学校の生徒が田植えを終えた後、子供たちに池で捕獲したザリガニやペタキンを見せた。特に、この日網ですくったペタキンの1匹は体長5cmもあり、私が見たペタキンの中では最も大きなものだった。



← ヤマアジサイの真ん中の両性花と周囲の装飾花



→ ヤマアジサイの両性花の雄しべ



6月12日(金) 暑い日差しの下で抱卵をしていたカルガモが、昼下がりに池に降りてきて水浴びをし始めた。カルガモも私たちが脅したりしないことがわかってきたのか、ゆったりと水浴びをして、また巣に戻っていった。

【草花】 タツナミソウ、ドクダミ、ブタナ、ノアザミ、ユキノシタ、チチコグサモドキ、ギシギシ、ミヤコグサ、オオバコ、コモチマンネングサ、トキワハゼ、クララ、キキョウソウ、ツルアリドオシ、ハンゲショウ、ツユクサ、

【木の花】 ソヨゴ、センダン、ネジキ、スイカズラ、イヌツゲ、アジサイ、クロバイ、クリ、トウネズミモチ、イソノキ、ムラサキシキブ、ビヨウヤナギ、ナンテン、シモツケ、フジウツギ、ウメモドキ、ネズミサシ(実)、梅(実)

【花壇】 ホタルブクロ、ウマノスズクサ、ノカンゾウ、キキョウ、時計草、セイヨウジュウニヒトエ、コスモス、ニゲラ、アガパンサス、マリーゴールド



6月20日(土) カルガモが抱卵し始めてから1ヶ月経つ。雨にも夏の暑さにも負けずカルガモの母は強いものだ。

ならやま虫だより

菊川年明

◆サラサヤンマ

4月下旬から7月中旬頃まで見られるヤンマである。本邦産ヤンマグループの中では最も小型で、体長は50～60mmくらいである。シオカラトンボより少し大きいという程度で、尾のように見える腹部はシオカラトンボより細い。一定の場所をよく行き来しているが、ゆっくりと飛翔し、人の目の前でホバリングをすることもある。

名前についている「サラサ」は更紗のことで、腹部の緑黄色の斑紋が更紗模様に見えることに由来する。緑色に近い複眼の輝きは特に美しい。

ならやまでは彩りの森辺りと、その東の方の自転車道沿いでよく見かける。このヤンマの幼虫(ヤゴ)は水中ではなくて湿地で育つ。多分、彩りの森の東の方に広がるメダケの茂みの中の湿地帯で発生するものと思われる。ならやま自然の森の尾根の南側の谷道でもよく見られる。

このヤンマの棲息する場所はたいへん限られていて、奈良県では希少種として扱われている。幼虫の生育環境の減少、破壊が原因のようである。県によっては(近くでは兵庫県)絶滅危惧種になっている。

ならやまでは滅多に出会えないような昆虫ではないが、私たちが日頃、あまり好ましい環境とは思っていないメダケの茂る湿地が希少種の貴重な発生環境になっているのかと思えば複雑な気持ちになる。(写真はサラサヤンマ)



パトロール班レポート

菊川年明

ベースキャンプ付近はたいへん暑い日でも、ならやまの山中は、大方のところは日陰になっていて、場所によっては涼しい風が通るところあり、観察路めぐりは結構楽しいものです。ことに、眺望の開けたところや尾根筋が快適です。このレポートは6月中旬のパトロールをベースに書いていますが、木々の緑もまだ若々しく、パトロールはハイキング気分です。

観察路にはいろいろな樹木が生えていますが、守口京子さんがせっせと樹木に名札を付けてくださっていますので、「よく見かけるが樹種不明であった木の名前がわかった」、「名前は聞いていたが、それがこの木だったのか」、「全然気づかなかったが、こんな木が生えていたのか」というようなことが、再々です。「こんなところにまで名札のついた樹木がある」と驚くこともあります。

残念なこともあります。珍しい植物が見つかったときに保護のための目印を付けておくとすぐに持ち去られてしまうことです。最近2種類の植物が被害に遭っています。

5月号でご紹介した美しいハンミョウ(甲虫)が赤岳と名付けている赤土の露出地(鳥観の丘南方の小ピーク)でも見られ、居着いているようでした。

この時期、陽当りのよいところでは笹が急に成長して観察路を覆っている場所があり、至急の笹刈りが必要になっています。

(写真は守口さん作成の樹木の名札です。)



6月 月例研修会

歴史共催 當麻の里を訪ねる



梅雨の最中の6月8日(火)、當麻の里を訪ねる例会が開催された。9時半に近鉄當麻寺駅

に集合したのは16名とぐずついたお天気のせいかな少なめである。川井代表の挨拶の後、一路當麻寺に向かう。平日の門前町は人も少なめで落ち着いた佇まいである。

境内の塔頭護念院に入り若いご住職のお迎えを受け、當麻寺の歴史や中将姫のお話を聞かせて頂く。毎年5月14日の中将姫の命日には、當麻お練りという25菩薩が本堂から娑婆堂の間を練り歩くという練供養会式がある。お練りで使われる観音菩薩面を住職から一人一人被せてもらい「南無阿弥陀仏」と唱えた。これで極楽往生できると皆さん大満足、得難い体験をさせて頂いた。次いで、本堂に移り老師(ご住職の父上)より當麻寺の仏像や當麻曼荼羅のお話を伺った。



練りという25菩薩が本堂から娑婆堂の間を練り歩くという練供養会式がある。お練りで使われる観音菩薩面を住職から一人一人被せてもらい「南無阿弥陀仏」と唱えた。これで極楽往生できると皆さん大満足、得難い体験をさせて頂いた。次いで、本堂に移り老師(ご住職の父上)より當麻寺の仏像や當麻曼荼羅のお話を伺った。

當麻寺は法隆寺に次いで国宝や重要文化財が多いそうで、金堂の四天王像も修理中であった。建物としては、東西に聳える国宝三重塔が特に素晴らしい。當麻寺は鄙びた田舎にあったせいで兵火にも合わなかった。東西の塔が創建時のまま残っているのはここだけである。

じっくりとお寺を拝観後、鳥谷口古墳に向かう。ここは7世紀末の古墳で、天武天皇の第3皇子で皇位継承をめぐり悲劇的な死をとげた、大津皇子の墓である説が有力視されている。大津皇子は優れた万葉歌人で、姉の大伯皇女とともに万葉集に



数首残している。皇子の残した相聞歌や辞世歌を皆で朗読し、往時を偲び悲劇の皇子に思いをはせた。日本書記には大津皇子は文武に秀で、素晴らしい歌を詠み群臣に慕われていたとあり、抜群の人物であったようである。しかし、血筋も良く、できるが故に皇太子草壁皇子の強力なライバルと見做され謀反の疑いをかけられる。朱鳥元年(686年)10月3日に磐余にある訳語田の自邸にて大津は自害した。享年24歳の若さであった。大津皇子、石川郎女に贈り賜いし御歌一首「あしひきの山の雫に妹待つと我立ち濡れぬ山の雫に」石川郎女、和へ奉る歌「吾を待つと君が濡れけむあしひきの山の雫にならましものを」。この相聞歌は特に有名で、若い二人の恋心が現代の我々にもよく伝わってくる。大津皇子には同母の姉大伯皇女がおり二人は幼い頃、母を亡くしとても仲が良かった。大津の亡骸を二上山に改葬した後、大伯皇女が弟を偲んで詠んだ次の歌も良く知られている「うつそみの人なる我や明日よりは二上山を弟と我が見む」万葉学者故犬養孝先生の揮毫による歌碑は、二上山を望む景勝の地に建てられている。鳥谷口古墳は、公園の造成中に発見された一辺7.6mの小さな方墳で、築造は7世紀末のものである。石槨も非常に小さく通常の埋葬施設とは言い難いものである。大津皇子は罪人であり、二上山に移葬されたと書記に載っていることから、皇子の遺骨を葬ったのではないかとの理由で大津皇子墓説が有力である。昼食の後、當麻山口神社、傘堂、石光寺と回り帰路についた。お土産は當麻寺駅近くの名物のよもぎ餅を買って帰った。ここの餅はよもぎ餅にあんこをまぶしたもので、甘すぎずおいしい。お薦めです。

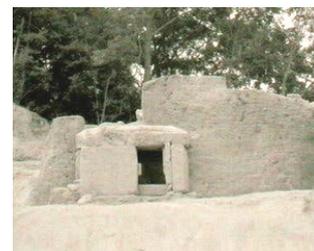
鳥谷口古墳は、公園の造成中に発見された一辺7.6mの小さな方墳で、築造は7世紀末のものである。石槨も非常に小さく通常の埋葬施設とは言い難いものである。大津皇子は罪人であり、二上山に移葬されたと書記に載っていることから、皇子の遺骨を葬ったのではないかとの理由で大津皇子墓説が有力である。昼食の後、當麻山口神社、傘堂、石光寺と回り帰路についた。お土産は當麻寺駅近くの名物のよもぎ餅を買って帰った。ここの餅はよもぎ餅にあんこをまぶしたもので、甘すぎずおいしい。お薦めです。



鳥谷口古墳は、公園の造成中に発見された一辺7.6mの小さな方墳で、築造は7世紀末のものである。石槨も非常に小さく通常の埋葬施設とは言い難いものである。大津皇子は罪人であり、二上山に移葬されたと書記に載っていることから、皇子の遺骨を葬ったのではないかとの理由で大津皇子墓説が有力である。昼食の後、當麻山口神社、傘堂、石光寺と回り帰路についた。お土産は當麻寺駅近くの名物のよもぎ餅を買って帰った。ここの餅はよもぎ餅にあんこをまぶしたもので、甘すぎずおいしい。お薦めです。

鳥谷口古墳は、公園の造成中に発見された一辺7.6mの小さな方墳で、築造は7世紀末のものである。石槨も非常に小さく通常の埋葬施設とは言い難いものである。大津皇子は罪人であり、二上山に移葬されたと書記に載っていることから、皇子の遺骨を葬ったのではないかとの理由で大津皇子墓説が有力である。昼食の後、當麻山口神社、傘堂、石光寺と回り帰路についた。お土産は當麻寺駅近くの名物のよもぎ餅を買って帰った。ここの餅はよもぎ餅にあんこをまぶしたもので、甘すぎずおいしい。お薦めです。

鳥谷口古墳は、公園の造成中に発見された一辺7.6mの小さな方墳で、築造は7世紀末のものである。石槨も非常に小さく通常の埋葬施設とは言い難いものである。大津皇子は罪人であり、二上山に移葬されたと書記に載っていることから、皇子の遺骨を葬ったのではないかとの理由で大津皇子墓説が有力である。昼食の後、當麻山口神社、傘堂、石光寺と回り帰路についた。お土産は當麻寺駅近くの名物のよもぎ餅を買って帰った。ここの餅はよもぎ餅にあんこをまぶしたもので、甘すぎずおいしい。お薦めです。



鳥谷口古墳は、公園の造成中に発見された一辺7.6mの小さな方墳で、築造は7世紀末のものである。石槨も非常に小さく通常の埋葬施設とは言い難いものである。大津皇子は罪人であり、二上山に移葬されたと書記に載っていることから、皇子の遺骨を葬ったのではないかとの理由で大津皇子墓説が有力である。昼食の後、當麻山口神社、傘堂、石光寺と回り帰路についた。お土産は當麻寺駅近くの名物のよもぎ餅を買って帰った。ここの餅はよもぎ餅にあんこをまぶしたもので、甘すぎずおいしい。お薦めです。

鳥谷口古墳は、公園の造成中に発見された一辺7.6mの小さな方墳で、築造は7世紀末のものである。石槨も非常に小さく通常の埋葬施設とは言い難いものである。大津皇子は罪人であり、二上山に移葬されたと書記に載っていることから、皇子の遺骨を葬ったのではないかとの理由で大津皇子墓説が有力である。昼食の後、當麻山口神社、傘堂、石光寺と回り帰路についた。お土産は當麻寺駅近くの名物のよもぎ餅を買って帰った。ここの餅はよもぎ餅にあんこをまぶしたもので、甘すぎずおいしい。お薦めです。

(杉本 登)

歴史研修会 特別企画 神話の国出雲を訪ねる

(平成27年5月31日～6月1日)

5月の歴史研修会は、神話の故郷出雲を訪ねた。参加者は28名、歴史日和に恵まれ、座学と探訪を織り込んだ中味の濃い旅行となった。

この企画に当っては、出雲委員会が発足し、歴史(岩本)、神話(川井)、出雲国風土記(古川)、出雲と大和(中井)、古墳(坂東)、旅行計画(鈴木)の分担により、学習と検討を重ね準備した。

初日、定刻5分前には全員が揃い、出発。鈴木添乗員の挨拶の後、車中での歴史講義が始まる。

まず、岩本先生の「古代の出雲」。弥生時代から古墳時代、更に8世紀の律令時代まで、出雲の歴史の専門的な解説がある。

川井さんからは「神話と出雲」のお話。出雲神話の主の大国主命、出雲大社のご祭神だが、不思議なことに中世では素戔鳴尊になっていた。また、ヤマタノオロチの尾から取出された草薙剣(くさなぎのつるぎ)を、天上を追放された素戔鳴尊が天照大神に献上したのは何故か。

神話の神々の解説に留まらず、全員に神話の神々の役が割り振られて解説される。これは、夜の宴会で、川井イザナギ尊の命による「なりすましの神々」の自演ショウの披露へとつながる。

3番手は、古川さんの「出雲国風土記」。国造出雲氏の手で編纂され、出雲の地理志や、記紀とは異なる固有の伝承が多く見られる。例えば、ヤマタノオロチ退治の話は無く、国譲りでも、大国主命が出雲だけは守ると宣言する。等々

4番手の中井さん、「出雲と大和のつながり」で、古代史の村井康彦先生の説を紹介。「大物主大神と大国主の関係」、「邪馬台国と出雲族、神武の東征、大和朝廷成立」など独自の謎解きが面白い。

最後は坂東が、訪問場所の見どころの説明と、遺跡や古墳、銅鐸の分類の解説を行なう。

バスは予定より30分ほど早く「国譲り」と「国引き」の舞台である稲佐の浜に到着。

次いで「島根県立古代出雲歴史博物館」、出雲大社境内から出土した宇豆柱、古代の出雲大社(48m)の模型、「西谷墳墓群史跡公園」「荒神谷遺跡」から出た国宝の銅剣、銅鐸などを見学した。

「島根ワイナリー」では、心行くまでワインを試飲し、宿所「ニューウェルシティイズモ」に到着。夜の宴会ではお酒の出方が少なかったようだ。



国譲りの現場 稲佐の浜

2日目は快晴、先ず出雲大社へ。ここでは「2礼4拍手1礼」が正しいやり方。神様は横向き(西向き)なので、西に回ってもう一度礼拝する。

西谷墳墓群では、弥生時代後期に造られた「四隅突出型墳丘墓」を見た。この型は出雲独特のもので北陸にも見られる。

荒神谷遺跡では、358本の銅剣などの出土地点を見学した。偶然の発見とされるが、出雲をもっと掘れば色々なものが出るのではと思う。

昼食後は眠る間もなく、川井さんの難問の歴史クイズと俳句の時間。因みに青木さん、羽尻さんが同点優勝でした。

帰路も殆ど渋滞がなく予定より30分早い5時15分に西大寺駅に到着。心地よい疲労と充実感を土産に家路につきました。

参加の皆様、歴史詰めめの2日間まことにお疲れ様。世話人の皆様、特に格安の旅行を企画・案内して頂いた鈴木観光さん、有難うございました。

(文責 坂東久平)

自然教室千一ムだよ

帯解小 校庭の自然観察会 実施報告

6月3日、雨が降るのか降らないのか微妙な天気でしたが、大事をとって体育館で実施しました。

今年から旧精華小学校と合併したため、参加児童もそれまでの30名台から約50名へと増え、賑やかになりました。私たちスタッフも6名に増やして準備を進めました。

「校庭の草木と仲良くなろう」をテーマに、
*アベリア（どんな花と実かな）、*タンポポ（不思議な花だよ）、*コバンソウ（お金持ちになれるかな）、*カラスノエンドウ（笛を鳴らそう）、*クロガネモチ（お手紙書こう）の5つのポイントを観察しました。

できるだけ自然遊びを取り入れようと、タンポポ、カラスノ



エンドウ、クロガネモチの3つの笛、葉っぱの字書き、アベリアの実を模したヘリコプターをしました。盛りだくさんの遊びで、子どもたちに楽しんでもらいました。



自然工作はクマのペンダントです。ちょっと時間が少なく気ぜわしかったのですが、それでも一生懸命に作っていました。

放課後教室担当の方々には5つの班にそれぞれ2名ずつついてサポートをしていただき、とても助かりました。学校ではなかなかできないことを、よく準備して実地に体験させてもらい、大変有難いとの感想を語っておられました。

私たちもいろいろ失敗をしながら、児童と一緒に楽しく自然観察をしました。

(倉田 晃)

育英小 校庭の自然観察会 実施報告

6月6日（土）前日の雨も朝には上がって予定通りの実施となりました。スタッフは7名、1・2年生に分かれての実施です。

1・2年生とも、テーマを「校庭の草木となかよくしよう」とし、自然あそびをできるだけたくさん取り入れた内容を心がけました。

1年生は、アオキ（字が書ける葉っぱ）クスノキ・ドクダミ・ミカンの匂いを比べる（どの匂い好き？）、タンポポ（花いくつ）ヤツデ（葉の形イロイロ）カタバミ（魔法の葉っぱって本当？）を取り上げました。タ



ンポポ笛を鳴らして喜び、10円玉をピッカピカに磨いて、カタバミの魔法？の力に驚いたようでした。形の違う葉を探す真剣な姿も見られました。

2年生は、アラカシ（これ、ドングリの赤ちゃん？）、カエデ（ヘリコプターとばせるかな？）クロガネモチ（葉っぱで遊ぼう）草いくつ（仲良く生きる姿）ネイチャー



ゲーム（不思議な散歩）をしました。鏡を使って歩く散歩に「こわーい」「空を歩いているみたい」の声が飛び交いました。教室で押し葉・押し花を使って、世界に1つだけのしおりに作りました。

校長先生も最後まで参観をして下さり、「子どもたちが大変喜んでいました。」と言って下さいました。

1・2年生の児童を掌握する難しさを感じつつ、素直に喜ぶ子供たちの姿に安堵した観察会でした。

(平岡 久美)

佐保台小5年生 田植え実習・報告

09年に始まった佐保台小5年生たちの稲作体験学習は、7年目を迎えました。梅雨前線の動きが気かりであったが、前日に通り過ぎてくれたので、絶好の日和となった6月4日(木)、予定通りに14名がチャレンジしてくれました。

午前10時に14名の元気っ子たちの声が、ならやまにこだま。藤田会長から歓迎と励ましの挨拶があり、サポーターの会員さんを紹介、子供たちからは、「よろしくお願ひします。」と力強い言葉が返されました。

水田に一步踏み入れた途端に、一斉に「きゃー」と大声。次の一步は勿論のこと回れ右もままならない。会員の皆さんに励まされ、田植えができる姿勢に落ち着く。苗の持ち方や植え方の手ほどきを受け、田植え縄の目印を目標に、「よし!」のかけ声に合わせて、14人が息を合わせつつ一列次の一列と植え付けていく。初めは戸惑いがちであったが、次第に手つきや足取りも慣れ、手際よく田植えが進み、一人当たり約100株の植え付けにチャレンジ。田の神様に豊作を祈願して約1時間で完了。



手足を綺麗にした後、ペタキン池で「ザリガニ」などを観察、中でも圧巻は体長約3~4cmにもなるかという「バラタナゴ(通称・ペタキン)」の観察ができたことであった。

緑陰広場で講評を聞く時、達成感に満ちた表情を浮かべていたのが印象的でありました。

今年の5年生は、上手に植え付けてくれました。収穫量も多くなるのではと期待しています。

(鈴木末一)



出雲学事始め

歴史文化クラブは、このたび「歴史の渚を歩く」シリーズの特別企画として、古代史上の謎の国といわれる出雲を訪ねた。

記紀をひもとけば、大和と出雲との間に一方ならぬ因縁を感じる。初期ヤマト王権の中心的な三輪山の主は大国主命とされ、大和の各地にも出雲系の神々の影が色濃く残る。神話の世界でも、主役に準じた役回りである。

出雲行きが決まった1月、世話人6人による出雲委員会で勉強を開始、出雲学事始めである。時は出雲ブームなのか、大阪で開かれた島根大学の古代出雲文化フォーラムには2000人の歴史ファンが詰めかけ、近つ飛鳥博物館の「古代出雲とヤマト王権」と題する4回の講演会は全て満員。メンバーは理解力、記憶力の衰えを痛感しながらも資料を漁り講演を聞き議論した。

初めて読む出雲国風土記は特に興味をひく。出雲生え抜きの国造が編纂したこの書は、記紀に語られない伝承や出雲の神々が活躍する。8世紀大和朝廷に屈しながらも、出雲固有の歴史・文化を守る姿勢が窺われ、記紀と対比してみると非常に面白い。

ご指導いただいた岩本先生でも「古代出雲はようわからん」と仰る。神話や伝承の豊かな割に、裏付けとなる史実、考古学資料が少ない為か、種々の本はあるが定説がないのだ。最近の神庭荒神谷遺跡や、加茂岩倉遺跡の大発見を切っ掛けに、出雲研究が盛んになっている。出雲学の今後の進展が待たれる。

かくて、まことに不完全ながら手作りの資料が完成し、晴れて歴史の渚への道行がはじまった。旅の詳細は、レポートに譲るが、一番楽しんだのは出雲委員会のメンバー自身であったことは間違いない。

(歴文クラブ 古川祐司)

ならやま里山林とナラ枯れ対策

「奈良・人と自然の会」が発足してもうすぐ15年の節目を迎えます。この間、会員数も150人に達し、県下有数のボランティア団体に成長しました。まことにご同慶の限りです。

さて、平成19年より取り組んできた「ならやまプロジェクト」は、県の求めに応ずる形で、「景観整備事業」として行ったものでした。しかし、その実態は荒廃した現地を「現代の里地・里山への復活事業」でありました。

数十年放置され荒れ果てた里山を復元すべく、動植物の実態調査を実施し、そのデータに基づき里山の整備に取り組みました。枯損木を撤去して林床を整え、笹群落を刈り取り、作業路や観察路を整備しました。また、水田や畑を復活させるとともに、水系を整備して水生生物の復活を図る等、里山の復権を目指してきました。

「ならやまプロジェクト」は、当会の中心事業となる環境保全事業として、その成果を県当局からも高く評価されていることは、ご承知の通りです。

ところが、京都丹後や滋賀県北部に発生した「ナラ枯れ現象」は事態を一変させました。コナラを主体とする里山林の死活問題として、平成2



2年2月講演会で警鐘を鳴らすとともに、専門研究機関、県の関係部署のアドバイスも得ながら、伝播防止・防除に懸命に取り組んでまいりました。

奈良県北部に伝播した「ナラ枯れ」はその後も衰えを知らず、平成24年よりならやま里山林にも被害木が発生し、現在も広く蔓延中でありました。

「ならやまプロジェクト」の原点ともいふべき、里山林の死活にかかわるこの災難に対して、私達は最大限のエネルギーを投入してきました。コナラ立木の全数調査、虫害調査、被害木の伐採、燻蒸、焼却などに大変な時間と労力をかけてきました。これらは当然、通常の里山林整備に上乗せの

作業量となっています。また、巨木の伐採作業は、危険を伴う施業で、細心の注意が必要です。

そうした中で一昨年、林野庁の「森林整備地域支援活動」が法整備されました。当会としても26年度から事業申請し、「森林・山村多面的機能発揮対策事業」をスタートさせました。この事業は、これまでの「ナラ枯れ対策も含めた里山林整備」「環境教育」などの内容と同一の活動ですが、「受託地全般を俯瞰しつつ整備を進める」ということで、監督関係者に理解を得ています。

一方、受託地周辺の里山林の現状は、これまで懸命な防除策を実施しても罹患樹木は際限なく広がり、打つ手なしの状況にあります。そこで根本的な対策と広く認知されている「里山林の若返り施業」に取り組むべき段階にきたと考えました。根本的な処置をする方向への方針転換・実験です。

幸いにも、経団連自然保護基金ではこの方針が了承され、活動支援の約束をいただきました。また、地権者である「奈良県」、行政監督官庁である「奈良市」とともにこの施業を理解され、このほど「部分皆伐施業」にゴーサインが出ました。幹事会でも、承認されました。

「明るく、楽しく、元気に、そして無理をせず！」の大原則を踏まえて、作業量、作業方法、作業運営など慎重に再考し一層の工夫と改善ははかりつつ、作業負荷減少方法とスケジュールを検討し、現実的に可能な実施計画を検討しています。

森林総合研究所関西支所、奈良県森林技術センター、黒田神戸大学大学院教授からのアドバイスを従来以上に受けつつ、根本対策としての「若返り施業」、従来からの「拡散防止施業」、も含め「ナラ枯れ」の対策を進めていきたいと考えています。

以上、里山林整備の現状と、課題 今後の方向につきましてご報告いたします。

会員の皆様におかれては、ならやま里山林の置かれた深刻な状況をよくご理解いただきまして、里山グループの取り組もうとしている方向に、ご助言と従来以上のご支援とご協力を賜りたく、心からお願いする次第であります。

(顧問 阿部和生)

鳥シリーズ 小田久美子

7月 記紀万葉集とカラス

6月から7月、鳥たちは子育てや雛の巣立ち真っ盛りの季節、町の中でも親子の鳴き声が賑やかに聞こえています。子供たちが巣立つと、短い研修期間のためファミリーで移動しています。

山に入ると降るように鳴き声が響き、私たちに

 は声や姿に感動出来る季節ですが、遅れる子や冒険する子などで、親たちが一番苦勞する時期でもあります。その頃カラスも子育て中で大きな脅威の存在になります。

【カラスの2種】

万葉集には多くの鳥が詠まれています、カラスの歌も何首かあります。

巻 7-1263 暁と夜鳥鳴けど このもりの木末が上は いまだ静けし

(訳) もう夜明けだと夜鳥は鳴いているが、この山の梢のあたりはまだ静かだ。

暁は午前4時頃のまだ薄暗い時間帯。もりは山を指す、原文では山上と書いている。

カラスは早起きで薄暗い時にご出勤、残業後遅く帰宅した昔の企業戦士並に遅い時入。

巻 14-3521 鳥とふ大をそ鳥の真実にも来まさぬ君を 見ろ来とそ鳴く

(訳) 現代人には、「カァカァ」と聞こえる鳴き声が古代の人には「コロク」と聞こえたようです。「見ろ来(愛しい人が来る)」と云っているようだというのです。

でもそれはカラスの勘違いで、愛しい人は本当は来ないのに…慌て者のカラスめ! と怒っています。

自分が恋人に会いたいと思うあまり、そう聞こえたのでしょうか。八つ当たりされたカラスも迷惑ですね。

♪カラス 何故鳴くの カラスの勝手にしょ〜♪
 という替え歌がありましたね。

もう一首、

巻 16-3856 婆羅門の作れる小田を喫む鳥
 瞼腫れて幡幢に居り

(訳) 婆羅門さん(インド僧)が、作っている田の稲を食い荒らす鳥は瞼が腫れて 幡幢に止まっているよ。私見ですが多分これはハンボソガラスと思われます。

中西万葉文化館館長は、婆羅門を東大寺の大仏開眼導師を務めた菩提僊那だとしています。

説法する時に旗をたてるしきたりがあったそうです。

ヤタガラスは、記紀の神武東征の大和入りの時の道案内をしています。熊野三山の牛玉宝印もあり、

 それぞれの大社の文字が鳥の姿で表されています。

【八咫鳥の法印】

近世までは起請文として証文の裏に使われました。宇陀の八咫鳥神社の御祭神「ヤタガラス」は、日本サッカーチームから送られた像があります。

日本サッカーチームのシンボルマークは、日本チームが強くなるごとに世界中知られるようになりました。



【八咫鳥神社の像】

やさしい病害虫講座 15

「果実を齧るのは誰だ！」

木村 裕

家庭菜園のトマト、いろいろな病害虫が発生しますよ。

トマトを攻撃する病害虫はいろいろありますが常連さんはおりません。発生は年によって、場所によって異なり、うまくゆけばまったく病害虫の発生なしというラッキーなこともあります。

野菜類ではアブラムシが常連ですが、トマトではときどき発生する程度です。体色が赤褐色のモモアカアブラムシ、緑色のチュウリップヒゲナガアブラムシのどちらかです。

アブラムシはその吸汁害よりもウイルス病を運んでくるので、厄病神になっています。この病気にかかると葉が細く糸状になったり、ねじれたりして奇形葉になるのが特徴で、治癒することはありません。うまく果実が収穫できれば儲けものです。

トマトの果実に丸い孔をあけて内部に首を突っ込んでかじるイモムシがときどき発生します。オオタバコガといい、つぎつぎに果実をかじります。果実表面に黄褐色の糞が付着しているようならそれを取り除いて虫を見つけだして捕まえてください。果実ばかりでなく、茎にも食入することがあります。



ナスでお馴染みのテントウムシダマシもときどき発生します。葉に階段状の食害跡を見つけたら犯人をとらえましょう。

有機農業、無農薬栽培などで近年増えているのがトマトサビダニという虫です。茎や葉から汁を吸いますので、被害を受けた茎は褐色になり、葉は黄色くなり裏面は少し光ります。ひどくなると果実も褐色になり、長十郎ナシのようなざらざらした肌になります。一枚の葉に数百匹の虫が寄り集まって飲めや歌への大宴会を開いていますが体が非常に小さいので見つけることはできません。薬剤散布以外に有効な対策はありません。幸いにも薬剤に対しては弱い虫ですので、ダニ剤、または殺菌剤の散布でも被害は収まります。



雨が降らず晴天の日が続くとハダニが発生することがあります。葉色がなんとなくすぐれないと感じたときはハダニを疑ってください。虫めがねで葉の裏を調べると、赤～淡橙色の小さな虫が走り回っているのが分かります。対策としてはダニ剤の散布です。

晴天が続く乾燥状態が続くと、うどんこ病が発生することがあります。発生初期は葉の表面に輪郭が判然としない円形の白いカビが生じます。被害が進むと葉全体が真っ白になり、株は一気に衰弱します。対策としては、照る照る坊主を逆さまに吊して雨乞いをするか、うどんこ病の薬剤を散布するかです。

トマトで最も恐ろしい病気は、茎と根を犯す青枯れ病です。株全体の葉が萎れるのが特徴です。そのまま放置しておくと、隣の株にも広がります。すぐに引き抜いて処分してください。それでも菌が土の中に残るので、数年はトマト、ナス、ピーマンの栽培は中止し、他の場所で栽培してください。



宇奈多理坐高御魂神社

由緒と古事民話談記 ①

歴史文化クラブ
鈴木末一

「平城京プリズム」・・・「世界遺産平城宮跡」の東部に隣接する法華寺・海龍王寺を含む地域及び、そこに暮らす住民や来訪者を対象に「光明の見える街づくり」を実現することを目的に活動。

多才な顔ぶれが集まり、月2回の定例会合を積み重ねてきた。活動の一つとして、この地域に関わる古事民話の集録を試みることになり、古老の皆さんによる「四方山話」を語る会を開催した。まだ緒に就いたばかりではあるが、初耳の話題などもあり、その一端などを交えて綴ってみます。

宇奈多理坐高御魂神社

祭神は、高御魂尊・天太玉命・思兼命である。由緒は、「延喜式内の大社で、月次・相嘗・新嘗の幣に預かっていた。古文書では、宇奈足とも菟足とも書いている。武内宿祢の勧請と伝えられ、『日本書紀』によると、持統天皇6年(西暦692年)12月24日には、新羅の調を伊勢、住吉、紀伊、大倭、菟名足の五社に奉るとある。その一社で、この神社の神戸(かんべ)は、正倉院文書の天平2年(西暦730年)大和税帳新抄格勅符抄に載っているが、いずれも神名は菟名足となっている。江戸時代には揚梅神社と呼ばれたこともあり、今、『うなたり社』とか、『西の宮さん』とか言っているのは近郷だけの通俗の略称である。

本殿は室町時代の遺構を残し、三間社、流造桧皮葺で、国指定の重要文化財である。境内一帯は、平城天皇の揚梅宮址とか春日斎宮の斎院址とかの学説もある。

御祭神三座は、高御魂尊(中座):高天原にましました神で、天御中主尊・神産日尊と共に造化の三神として御神徳極めて高く鎮魂の神であらせ給う。高天原に大事あるときに諸神を率いて事にあたり、常に天照大神を助け、八百万の神を指揮し給うた神。天太玉命(東座):高御魂の御子、神事を掌り給う神で、天岩戸の祈請のとき、その御前で大太串を奉

持され、祭祀を以て天照大神にお仕え遊ばされた神。

思兼命(西座):高御魂の御子、数多くの思慮を一身に兼ね持ち給うたと言う意で、高天原に大事のあった時、画策して事ならなかったことは無いと言う。

境内社は、みな天孫降臨に随従された神々を祀る。天鈿女命社:天岩戸の前で神楽を舞い、天孫降臨に随従された女神。芸術の祖神。猿田彦命社:天孫降臨のとき、先頭に立ってちまたの邪神を祓い、交通安全に導かれた神。手力男命社:天岩戸の変のとき岩戸を開いて、天照大神を助け申しあげた力の強い神で、天孫降臨に随従された神。

大宮媛命社:太玉命の御子、天照大神に仕え、世を平和に導かれた神。豊岩窓命社:天太玉命の子で、別名を天岩門別神、御門の神(門戸の守護神)天孫降臨のとき天照大神の勅を承り、思兼命・手力男命と共に豊葦原に降り給うた神。



さて、古事民話談記には、鳥居の5~60m手前・高さ数mの築山に熊野権現から続く大きな岩があり、その前に「下馬」の立て札があった。その昔、お婆さんが馬に乗ってお参りする習わしで、馬から降りた場所である。ところが、時の流れとともに、「降りてくださいお婆さん」が、「おてくれ婆さん」と口伝されるようになった。つまり、暗くなって外へ遊びに行くと、「おてくれ婆さんが出てくるぞ。」子どもの躰用語となったと言う。これに類する民話は、興福寺・北円堂への参道付近でも言い伝えられているそうである。また、全国各地にも同様の話があるやに聞き及ぶ。詳細について調べてみたい。

出雲の旅 雑詠譜

皆さんに神々の名を化生して頂き、古代日本の輪郭を修得し、帰路、自主的に出句して頂きました。ご照覧下さい。(順不同) 推奨句

神は誰ぞ^た稻佐の浜の夏神楽

オオクニヌシノミコト 古川 祐司

見れたかなハマヒルガオも因引きを

コノハナサクヤヒメ 辻本 愛子

風に鳴る出雲の絵馬と青葉騒^{さい}

オモイカネノミコト 鈴木 末一

薰風に古代の出雲杜の華

アメノミナカヌシ 藤田 秀憲

佳句

八雲立つ青葉の杜の月初祭

イワレヒコノミコト 八木 順一

奈良びとや出雲で見たり蓮卷き葉

タカミムスビノカミ 岩本 次郎

出雲路の神話の謎を誰か知る

アマテラスオオミカミ 池田 富子

八雲立つ蓮の巻き葉に風走る

オオヤマツミノカミ 坂東 久平

神々の若葉さわさわ出雲かな

タケミナカタノカミ 永井 幸次

神々の里のロマンや風薫る

ホデリノミコト 羽尻 嵩



俳句百景

監修 川井秀夫

早苗月古代出雲を巡りたり

タケミカズチノカミ 阿部 和生

銅鐸の役割終り土の中

ツクヨミノミコト 下村 晴文

ヤマボウシ銅剣出づる里に咲き

ニニギノミコト 辻本 信一

雲州の蓮の巻き葉や須勢理毘売

スセリヒメ 青木 幸子

いにしえの出雲をめぐる群集墳

サルタヒコノカミ 弓場 厚次

朝霧の弥山の麓神坐す

アメノホヒノミコト 内河 洋文

銅剣と蓮のみどりに露光る

スサノオノミコト 中井 弘

波立ちて稻佐の浜は出雲の地

タジカラオノミコト 和田 啓志

大化けの神話の神は浴衣掛け

イザナギノミコト 川井 秀夫

「出句を遠慮された方々」

菅野 勉 ホホデミノミコト ・ 寺田 孝 コトシロヌシノミコト

山中 笹子 クシナダヒメ ・ 池田 信明 アメノコヤネノミコト

富井 忠雄 スクナビコナノミコト ・ 上西千代子 ヤカミヒメ

西谷 範子 イザナミノミコト ・ 池田敬二郎 オオワタツミノカミ

岡崎 節子 タマヨリヒメ

癒しの散歩道

春 簾 雨 窓

谷川 萬太郎

暗雲立ち込め小寒い風吹けば 遙か遠くの野辺の山から物憂げな雨
 深々と降り注ぐ煙雨迫りくる雨音 そぼ濡れた春景色は静かに消ゆる
 やがて来る窓辺の雨簾の向うには きっと濡れ親しむ花菖蒲が艶やかに
 頭を垂れて微笑み返す優しき姿 見ればなお心に浸みて我を忘るる

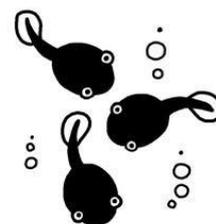


いつも陽気でお洒落な花卉の舞 季節の悪戯に翻弄されて戸惑う姿
 春の踊りも忘れ濡れた衣装の儘で 願いも届かぬままに恨めしき空よ
 待人よ軒先の雨簾くぐり抜ければ 初夏の香り漂う真青な空が顔を出す
 可憐な少女のように優しく寄り添い 耳元で囁く水芭蕉に心奪われて

ならやま茶論

「これから」

竹本 雅昭



玉五郎： オーイ、みんなサッカーせえへんか。
 玉吉お前ボールになってくれ。
 玉吉： いやだよ昨日もボール役で一日中目ま
 いでよ、良く眠れなかったよ。
 玉五郎： 玉八兄、とろんとした目でどうしたん
 です。
 玉八： 見ろよ頭の上を、アメンボウのカッ
 プルが風のワルツに乗ってよ、スーイ、
 スーイ、クルクルっと楽しそうだぜ。い
 いなあ……。
 玉五郎： だったら早く相手を見つけたら。
 玉八： そんな事百も承知さ、でもこの尻尾
 が取れてからでないと男前になれんか
 らな。
 玉吉： えっ！ 尻尾がなくなるんで？

玉八： そうよ四本足で小意気な彼女とダン
 スしてな、かわいい子供をたくさんつく
 るのさ。エッへへ!!
 玉五郎： あっ痛て！ 何だ何だ、いけねえ苗
 束が一杯飛んでくるぜ。いつの間によう
 け紐が端から端迄張られて、まさかアメ
 ンボウの競泳か。
 玉八： 何を呑気なこと言っとる、ほれ青帽子
 の小五年生が裸足で蛙に並んだぞ。田植
 だ田植、踏まれんよう気つけや。
 玉五郎： 突然の事で何のことだか、ウワーど
 っちへ行っても足だ手だ危ない!! 助け
 てくれ！ 目が回るよ……。
 “紐に変わって苗の線美しく”
 「蛙では“やった……” 小五年生と
 日焼け気になる早乙女が万才万才万才。」

～ 終 ～



- 写真 (中井 弘) 「荘厳」
- 水彩画 (鈴木末一) 「記念の花」
- 水彩画 (八木順一) 「大王崎灯台」
- 墨彩画 (羽尻 嵩) 「夕涼み」
- 陶芸 (小島武雄) 「花猫」



「荘厳」中井 弘



「夕涼み」羽尻 嵩



「大王崎灯台」八木順一



「花猫」小島武雄



「記念の花」鈴木末一

ならやまプロジェクト

明るく・楽しく・無理せず・諦めず
活動予定日

7月	2 (木) 23 (木)	9 (木) 30 (木)	16 (木)
8月	6 (木) 27 (木)	13 (休み)	20 (木)

- ◆ 場 所：奈良市奈良阪町・佐紀町の県有林 [ならやま会館前道路(ならやま大通り)の南側に広がる里山林地]
- ◆ 朝の打合せ：ベースキャンプ地・午前9時
- ◆ 作業開始：午前8時から可(夏季期間)

◆終了予定：午後2時半(早まることあり)

◆アクセス

① JR平城山駅下車：東口から南へ徒歩10分

② 近鉄奈良駅：バス13番乗り場 115系統
8：28発、高の原行き (平日)

③ 近鉄高の原駅：バス1番乗り場 115系統
8：36発 JR奈良駅西口行き (平日)

②③とも「佐保台西口」又は「平城大橋」下車
徒歩7分

◆携行品など：弁当、飲み物
軍手(作業用具は現地で用意)



◆環境保護のため、お椀、箸
コップなどは各自ご持参下さい。



◆ 連絡先：八木 順一 0774-55-4044

7月2日

<里山 Gr>

- ・コナラ被害木伐採、その他枯損木除伐
- ・薪関係(玉切り、集積、薪割り、薪棚制作)
- ・エリア境界の杭打ちとロープ張り
- ・GGイベントの準備
- ・植樹関係(施肥、補植、コナラ苗採取)
- ・萌芽コナラの保護(竹杭等で囲うなど)
- ・チェーンソーの整備講習実施

<エコファーム Gr>

里芋 サツマイモ とうがらし 除草 追肥
ネギ移植

<景観 Gr> 第5地区の草刈り・水生生物調査、池の整備

- ・アジサイ剪定、山野草園草取り、名札立て
- *観察路の笹刈り

7月9日

<里山 Gr> 上記継続

<エコファーム Gr> ゴーヤ 誘引支柱立て 枝豆
除草 追肥

<景観 Gr> 彩の森の草刈り、
植樹園の剪定手入れ・池の整備

- ・アジサイ剪定、施肥、花壇花苗移植、草取り
- *立ち入り禁止区域の侵入防止テープ張替

7月16日

<里山 Gr> 上記継続

<エコファーム Gr> 玉葱 じゃがいも ニンニク
畑チップ入・耕耘

<景観 Gr> BC周辺の草刈り・水生生物調査、池の整備

- ・蛍袋剪定移植、柵作り、コスモス種まき
- *希少植物の保護柵の更新

7月23日

<里山 Gr> 上記継続

<エコファーム Gr> ボカシ肥作り 水田土用干し

<景観 Gr> BC周辺及び駐車場の草刈り
GGプロジェクトの準備、池の整備

- ・日蔭植物園整備、花壇施肥、草取り
- *佐保自然の森、植樹木の銘板更新

7月30日

<里山 Gr> 上記継続

<エコファーム Gr> 茄子・とうがらし収穫

<景観 Gr> 第五地区・佐保自然の森のひまわり伐採と鋤込み

- ・水生生物調査、池の整備
- ・山野草園整備、柵作り、名札立て
- *観察路の丸太階段補修、倒木の処理
- *パトロール班の項目実施日は変更もあります



行事案内 part 1

7月 月例研修会案内 清涼の「みたらい溪谷」を歩く

今回は7月の暑い中標高800Mで温度差約4-5° 秘境天川村の景勝地。エメラルドグリーンの水と巨岩、奇岩、滝などが織りなす自然の造形美が満喫出来るコースです。

下市口駅集合でバスにて天川村川合口バス停までそこから、マイナスイオンいっぱいのみたらい溪谷を散策します。終点では名湯（洞川温泉センター）に入浴して、疲れを癒して、バスにて下市口駅に向かいます。ほぼ平坦（少し階段あり）な約7Kmの遊歩道を歩く予定です。皆様のご参加をお待ちしています。

- 1 実施日：7月21日（火）
- 2 集 合：午前9：10（近鉄吉野線下市口駅）



- 3 コース：近鉄下市口駅バス9：20分出発
一川合一みたらい溪谷入口一哀伝橋（みたらいの滝）昼食一観音峯山口休憩所（WCあり）
一洞川温泉センター（入浴）一洞川温泉バス停一近鉄下市口駅着17時5分（解散）
- 4 交通：近鉄：大和西大寺7：35一橿原神宮前8：29一吉野線下市口9：03着
JR：JR王寺駅（和歌山線）8：05
一吉野口8：47近鉄吉野線
一下市口駅9：03着
- 5 バス料金：下市口駅一天川川合 1110円
洞川温泉一下市口駅 1280円
- 6 入湯料： 600円

担当：木村 裕・富井忠雄

GGプロジェクト案内

『夏だ！休みだ！里山で遊ぼう！①』

夏目前。例年当会では、GGプロジェクトの一環として子供たちや保護者を対象としたイベントを実施します。

今年度も来る7月25日（土）10時から「ならやまベースキャンプ」で実施します。今年は、飯盒炊飯と昆虫観察をメインにして取り組みます。

オリエンテーションの後、早速昼食の準備に。3時間の間、カレー作りは勿論のこと、後片付けにも参加者全員で挑戦します。家ではなかなか経験できないことで悪戦苦闘する参加者の姿が想像できますね。



昼食の後は、グループに分かれての昆虫観察と自然工作。当会のならやまベースキャンプには里山は勿論のこと、田んぼや池などもいっぱいあり、四季を通じていろいろな動物や植物に触れることが出来ます。今回は池や田んぼ、そしてその周りの草むらを利用して昆虫や魚などの観察に取り組みむこととなります。

申し込み開始は7月1日（水）。人数も限られています。参加を予定している人は、出来るだけ早く申し込みを済ませてください。

夏の一日、ならやまベースキャンプに足を運んで、楽しいそして充実した時間を過ごしてみたいでしょうか。会員一同大歓迎で、首を長くして待っています。





行事案内 part 2

7月 歴史研修会

五条市の藤岡家住宅見学と古事記探訪

吉野、熊野、高野三つの「野」を結ぶ街道の交わる所、宇智野に建つ藤岡家住宅を訪ねます。

400坪の敷地に母屋、米蔵、内蔵、茶室など200坪の建物があり、登録有形文化財の指定を受けています。長い間空き家となっていたのを修復し「うちの館」として公開されたものです。

住宅のしつらえの見事さはもとより、修復時に家や蔵から出てきた数々の品には目を見張ります。俳人（玉骨）でもあった当主の交友の広さを物語る著名人の額や手紙などが展示され、また7月には「南方熊楠からの手紙展」が開かれます。



当日は、館内の見学と、古事記の研究者でもある川村館長から、五条の地に深くかかわる古

事記のお話をやさしく解説していただきます。

昼食は登録文化財の大広間で当地の料理屋による美味しいお弁当をいただきます。

午後は、バスの中で川村様の説明を聞きながら、古事記にまつわる処を回ります。木花咲耶姫をまつる阿田神社、姫が産屋に火をかけて3人の子を産んだ森や、大和と紀伊の国境の真土峠（万葉集歌の名所）などなかなか普段は行けない所です。

実施日：7月14日（火） 雨天決行

集合：近鉄奈良駅東 中小企業会館前 8：30

会費：3000円＋弁当代1400円

担当：中井弘 西谷範子

バスの定員は27名です。希望者は事前に事務局まで申し込んでください。

事務局：古川祐司 0742-44-8621

E-mail rekibun@naranature.com

ジョイントコンサート

♪♪ チェコの調べ ♪♪

チェコオペラ界の重鎮バリトン歌手のロマン・ヤナール氏一行を奈良にお迎えし、7月15日（水）午後2時半より奈良国立博物館講堂にてジョイントコンサート「チェコの調べ」を開催致します。（詳細は会報6月号同封チラシをご参照下さい。）

今回のコンサートはロマン・ヤナール氏一行来日の機会を捉えご本人達のご好意とご協力を得て、日ごろ当会の活動にご参加頂いている（ご家族、友人の皆様を含む）会員相互の親睦と交流を目的とし当会主催にて実施致します。

これまでも国際交流の活動に従事されている奈良のボランティアグループ「虹の会」のご協力を得て80人規模でのプライベートコンサートを毎年奈良で実施しておりましたが、今回ロマン・ヤナール氏の登場により、より多くの皆様楽しんで頂こうと場所を国立博物館の講堂に変え実施するものです。

コンサートは「虹の会」でフィリッピン音楽を通じ国際交流の活動をされている「ロンダリア」の皆様も参加されてのジョイントコンサートです。皆様、お誘いのうえ是非ともご参加下さい。（事前のご予約お待ちしております。）



プラハ国立劇場で主役（ドン・ジョバンニ）を演じるロマン・ヤナール氏

（問合せ先：辻本信一 090-4450-8459）

8月例研 〈夏季研修会〉 予告

【尼崎 21 世紀の森づくり】 視察研修

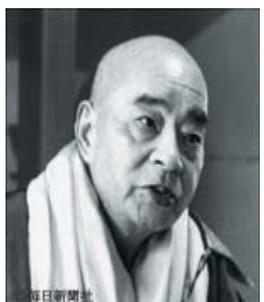
兵庫県尼崎市は、2002 年から「尼崎 21 世紀の森づくり」プロジェクトを立ち上げています。

・地域産のタネから多種類の樹木を育て、100 年かけて緑豊かな都市近郊の森づくりをめざし、県、市、市民、ボランティア G などが一体となって活動しています。昨今地域の子供たちへの環境教育にも力を入れています。

・私どもの活動にも参考になるものと思われま
 多くの方のご参加をお待ちしています
 ・その他尼崎運河の水質浄化施設や西宮ヨットハーバーの西宮市貝類博物館にも立ち寄ります。

・28 人乗りの貸切バスで行きます。
 ※実施日； 8 月 17 日 (月)
 ※参加費； 3,000 円 (バス代ほか)
 ※集 合； 西大寺駅南口 8:20
 ※参 加； 事前にお申し込みください
 ・担 当 羽尻 嵩 青木幸子 寺田 孝

【問】 3 人の人達は、いずれも奈良に深い関わりがあります。お名前を漢字でお答えください。



【締切】 7 月 5 日
 【応募方法】 メール nara-suzuki@naranature.com
 【景品】 旬菜 etc
 【6 月号答え】
 ① 上村松園・日本画家
 ② 住井すゑ・小説家
 ③ 田村キヨノ・日吉館

旬菜旬食



ならやまエコファーム料理 (今夜の夕餉)
 ならやまで収穫した材料中心の簡単、格安、且つ美味料理 今月は玉ねぎ中心

- *メニュー
- ・玉葱他野菜串カツ
- ・玉葱とトマトのスープ
- ・玉ねぎサラダ



- ◆材料 (2 人分)
- 玉葱 3 個・串カツ用野菜 (玉葱・じゃが芋・茄子・南京・オクラ・サント豆・茹で卵等)
- *海老・鶏肉・豚肉も美味しいが野菜丈で充分 鳥もも肉 100g・トマト 3 個・胡瓜 1 本
- ◆調味料・・・塩・胡椒・醤油・砂糖・油・鶏がらスープ・青紫蘇ドレッシング・天ぷら粉・パン粉・串揚げ用串

- ◆作り方
- *串カツ・・・串カツの材料を串に刺し易いように細長く切り (くしきり) 串に刺しておく。天ぷら粉を串カツが入る深い目の容器で固い目に溶き 2 時間ぐらい置いておく (少し醗酵させるとふっくらと揚る) 材料を、練った天ぷら粉に浸けパン粉をまぶして 190 度くらいの温度で火が通るまで揚げる。
- *サラダ・・・玉葱・胡瓜を千切りにして少し塩で揉み水洗いして氷水に放しておく。野菜がピンとしたらトマト・茹で卵を輪切りにしてドレッシング (お好み) で和えて出来上がり。
- * 玉葱とトマトのスープ
- 玉葱・トマト 2 個は大きいものは、縦に二つ割大きめの串切り (1センチ幅位) 鶏肉は大きめのぶつ切り。鍋に玉葱・トマト・鶏肉と重ねて入れて行き材料が被る位に鶏がらスープ・塩・胡椒・醤油 (香り漬けに少々) で味付け材料が柔らかく崩れる位まで煮たら出来上がり (冷たくしても美味しい) 青シソの葉を刻んで上に乗せるときれい。
- *新玉葱を縦半分串切にしてバラバラにして油で炒め塩・胡椒で味付け (香りづけに醤油少々溶き卵でからめても簡単でおいしいよ!!

(池田富子)

平成27年・6月度幹事会報告

◆日時：平成27年6月2日(火) 17:00～20:30

◆場所：奈良市中部公民館

◆案件：

I 会長挨拶(報告)

- ・H27年度GGプロジェクト助成金残金を入金。
- ・顧問・幹事に会議費支給。
- ・発電機と刈り払い機の盗難事件が発生し、被害届を関係機関に提出。今後の作業上、刈り払い機の補充発注を行いたい。防犯対策及び備品管理について万全の対策を講じるため意見集約を早急に進めたい。

II 報告事項

1. 会員数149名(前月に同じ)新年度名簿は取扱いに留意する。
2. イベント報告
5/3～5 天平祭出展参加、5/13 月例研修会(京都府立植物園)、5/31～6/1 歴文研修(出雲)実施。
3. 第14回通常総会・10年継続会員表彰実施。
必要参加者数を得て総会成立、3議案全て承認。
4. 5/28 奈良県森林技術センター伐採木搬出デモ。
5. 顧問・幹事の新たな役割分担並びにならやま委員会・サポート体制が承認された。
6. その他：
幹事会議長・書記担当を再調整する事となった。

III 検討事項

1. ならやま：各グループより5月の活動報告と6月の活動予定の説明がなされた。
2. H27年度の予算執行につき各担当を再確認。
3. 林野庁関連：新年度取組み承認連絡待ち。
4. 経団連助成金関連：県及び市の了解を得て、今後ならやま委員会機能もフルに活用し会全体で対応する事となった。
5. 各種イベント行事参加協力依頼：6/4 佐保台小学校、稲作体験学習、6/25 春の感謝祭、飯盒炊爨、カレーライス提供、7/25 GG イベント第1弾、親子で70名の参加を予定、8/17 8月月例研修会(尼崎21世紀森作り視察)、9/17 奈良県景観サポーター基礎講習受入。

IV 確認事項

- ・6～8月スケジュール表に基づき日程確認。以上

◆ 申し合わせ ◆

- ※ ならやまでのプロジェクト活動やイベントは、前日午後7時前のNHKTV天気予報で奈良県北部の降水確率が午前60%以上の場合は、中止になります。
- ※ 通常活動日【木曜日】が、雨天等により中止になった場合、翌日【金曜日】を臨時活動日とします。



◆最近の気象の変動は大変に荒々しいように感じる。

地球温暖化、太平洋の海水温の上昇など、色々と原因が考えられているようですが、この影響を受ける我々はたまったものではない。

具体的には、台風が大型で強くなって来た。中心の気圧が900ヘクトパスカルを下回るような強力なヤツも珍しく無くなって来た。

集中豪雨も昔は一度に降る雨量が大したことは無かった、いわゆる「夕立」であったが、昨今はゲリラ豪雨と呼ばれる記録的大雨となって、全国的に川の氾濫や土石流、がけ崩れ、地すべり、などの災害を引き起こしている。

ならやまのBCも安心出来ません、「備えあれば、憂い無し」機具の盗難も含めて用心が肝要。

荒梅雨に 天災地災 怠らず

(行々子)

会報誌[ネイチャーなら]・第160号

発行：奈良・人と自然の会

会長 藤田 秀 憲

<http://www.naranature.com>



編集チーム代表：坂東久平